

---

CAR LOVE LETTER 『Forgotten word』

YAS

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

CAR LOVE LETTER 「Forgotten word」

### 【Nコード】

N8043H

### 【作者名】

YAS

### 【あらすじ】

友達以上恋人未満の彼ら。今日もまた、彼女に呼び出され彼は向かう。(テーマ車種：日産キューブ (BZ11))

(前書き)

車と人が織り成すストーリー。車は工業製品だけれども、ただの機械ではない。

貴方も、そんな感覚を持つたことはありませんか？

そんな感覚を「CAR LOVE LETTER」と呼び、短編で綴りたいと思います。

<Theme:NISSAN CUBE(BZ11)>

今日の合コンも最っ悪だった！

連れの男の子が医学部の結構いい感じの男連れて来るとか言ってたけど、は？って感じのやつだったし、しゃべりとかもあんまり面白くないし、しかもそいつら酔ってきたら身体触って来たりするしさ。どんだけ飢えてんのって感じで！

結局二次会も無しで解散って事にしてさ、あたしらは女だけでカラオケに行く事にしたの。

みんなは朝まで遊んでくって言うてたけど、あたし明日学校一限目からあるし、しかも出席かなりヤバイから、途中で抜ける事にしたんだ。

駅に着いたら、ちょうど下りの最終が行ったばかりでさ、もう最悪。まあ、いいか。またアイツに来てもらおっかな。

「もしもし？」ちょっと不機嫌そうな感じでアイツは電話に出る。

「ごめん、電車終わっちゃってさあ。悪いんだけど、駅まで来てくれない？」

30分程してアイツのキューブが駅のロータリーにやって来る。

「いつもごめんねえ。」あたしは慣れた感じでキューブの助手席に滑り込む。スカッシュの香りとOASISの曲があたしを出迎える。「別にいいよ。」不機嫌そうだけど、内心まんざらでもなさそうな感じで、アイツはキューブを走らせた。

アイツとあたしは、大学のゼミで一緒の同期生。1年の頃から仲良しグループみたいなのでつるんでいた。

みんなで飲みに行った時に、二人つきりになった時があつて、その時あたし、アイツに告られてさ。

あたしとしても、アイツのこと別に嫌いじゃないし、他に気になる男がいる訳でもないし、まあいつかなあと思っただけど、ぶっちゃけそんなすごいタイプって訳でもないし、今のこの仲間のバランスがおかしくなっちゃうのも嫌だなあと思ったの。

だからあたし、その時アイツに「ありがとう」って言って、お茶を濁す事にしたんだ。

それ以来、あたしとアイツの「友達以上、恋人未満」って関係がスタートしたの。

二人で買い物したり、ご飯や映画行ったりとかさ、でもキスもエッチもしないし、お互い束縛したりもしない。

あたしらの事情を知ってる親友は、「アイツもよく耐えてるよね」って言ってた。

確かに、あたしはアイツの気持ちをうまく利用しているだけかも知れない。これ以上進展が望めないのだから、アイツにとっても他の女と付き合った方がいいんじゃないかと思う。

でもいつもアイツが「別にいいよ。」と言う度に、あたしはまたアイツに「友達以上、恋人未満」を強要してしまうの。

アパートまで送り届けてもらう。この時間なら、今からシャワーしても明日の一日目に間に合う様に起きられそうだ。

あたしはキューブから降り、運転席側にまわって「今日もありがとうね。」とアイツに言う。

「別にいいよ。」といったもの様にアイツは言う。でもすごく物欲しそうな表情。

少し間を置いて、「じゃ、また明日。」とアイツからきりだしてきた。

キスくらい、してあげればよかったかな。あたしは自分がちょっとひどい女に思えてきた。

夏の終わり頃、あたしはバイトの面接を受けに行った。多分一年位しか出来ないんだろうけど、バイト代貯めて、卒業旅行に海外とかが行きたいんだ。

その帰り、もの凄い大雨に見舞われた。傘もないし、雨は止みそうもないし、困ったなあ……。

また、アイツにお願いしちゃうかな。

「もしもし。」またアイツは不機嫌そうに電話に出る。

「ごめ〜ん、傘持ってなくてさあ。悪いんだけど、迎えに来てくれない？」

「……いいよ。」いつもよりずいぶん間があつた様な気がした。さすがに怒ってるのかなあ。今日はキスくらいしてあげようかなあ。

バイト先で待っていると、雨をワイパーで拭いながら、アイツのキューブがやってきた。ハザードランプを点滅させて、道路で待つてくれている。

あたしは水溜まりを跳び越えて、雨の中キューブへ駆け込んだ。

「ごめんねえ。雨降るなんて思わなかったからさあ。」あたしはなるべく明るくアイツにそう言った。でもアイツは無言でキューブを発進させる。

あゝ、ヤバイかな。結構怒ってる感じかな。言葉少なにアイツはキューブを走らせる。楽しい会話を引き出す間もなく、あたしのアパートに到着する。

なんかキスするとかそういう空気でもないしなく。あたしはアイツの顔をチラッと見る。アイツは前の道路を見つめたまんま。

するとアイツから「俺さ、もうお前を迎えに来てやれないから。」と言ってきた。

「何で？怒ってるの？それとも、彼女でも出来たの？」あたしはトントンカンな質問をしてしまった。でもその場の空気とアイツからの思いがけないその言葉から、あたしはそう聞くだけで精一杯だった。

アイツは、家庭の事情で家に帰る事になったって、学校も辞める事になったって、もう来月には、地元に戻っちゃうって、そう言った。

急な話に、あたしの思考は止まってしまった。

アイツは去り際に寂しそうな顔をして「ごめんな。」と言ってきた。ちよっと待って、それはあたしのセリフだから。

あたしは降りしきる雨の中、去り行くキューブの後ろ姿をただただ見つめるだけだった。

仲間でアイツの送別会をやるうって話になった。もちろんあたしも行くと言ってたんだけど、あまりにもバツが悪くて、あたしは体調不良って事にして、送別会をドタキャンしてしまった。

アイツが発する日も、あたしはあえてバイトを入れて、アイツの事を考えないようにした。

学校帰りの駅までの道沿いに、アイツが住んでたアパートがある。二階の角部屋で、緑のカーテンで、いつも洗濯物がぶら下がって、そして駐車場にはキューブが停まっていた。

今は駐車場にはキューブはいない、緑のカーテンも洗濯物もない、入居者募集の貼り紙だけが薄暗い部屋の窓に貼られている。

冬のある日、あたしは久しぶりにアイツに電話した。

いつもよりも長いコールのあと、アイツの声が聞こえてきた。

「もしもし、久しぶりだな。どした？」

「・・・悪いんだけどさ、迎えに来てくんない？」

「え・・・？何言ってるの？」

「駅の東口の、銅像の前。早く来てよ。」

あたしは、学校もバイトもサボって、アイツの地元に来てしまった。宿の予約も取らず着替えも持たず、気が付いたら、飛行機に飛び乗っていた。

しばらくすると、雪がしんしんと降る駅に、アイツのキューブがやってきた。アイツは車を止め、あたしに歩み寄ってくる。

「何してるの、こんな所で・・・。」

アイツの優しい表情にあたしは涙が溢れそうになるのをこらえて「

お腹空いた！ラーメン行こ！」と、今度はアイツのキューブに飛び乗った。

ラーメンの後に、アイツは夜景が見える展望台に連れて行ってくれた。あたしが今まで見た夜景の中でも三本の指に入る夜景だった。

「びっくりだよ。まさかここで会えるなんてさ。」雪玉を投げてアイツは言う。

「あたしね、ずっと言うのを忘れてた言葉があったの。」「二個目の雪玉を作るアイツにあたしは言った。

「前に、あたしの事好きって言ってくれたじゃん。あたしも・・・、君が好き。まだあたしの事、好きでいてくれてる？」

一言一言発する度に涙が溢れて、カミカミになってうまく喋れない。そんなあたしの涙を拭いて、アイツはさ、優しく微笑んで、こう言ったの。

「ありがとう。」

それを聞いて、あたしはアイツの腕の中で、ただただ泣き続けるだけだった。

アイツのキューブと同じ色のキューブを街で見掛けると、スカッシユの香りとOASISの曲を思い出すの。

それと、あの夜景を背に「ありがとう」と言ったアイツの優しい表情も、思い出すんだ。

(後書き)

本作はCAR LOVE LETTER「Necessary」、  
「Voicelles regret」の姉妹作品です。そちらも  
ご覧いただければ、よりいっそうお楽しみいただけると存じます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8043h/>

---

CAR LOVE LETTER 「Forgotten word」

2010年10月19日11時26分発行